

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
センター長兼国際診療科部長	南谷 かおり
副センター長兼循環器内科部長 兼認知症ケアセンター長 兼りんくうウェルネスケア研究センター長 兼産業医	増田 大作
非常勤医員	馬場谷 美知子
応援医師	葛城 有希子
保健師	岩岡 文夏
保健師	八嶋 茉莉
看護師（臨時嘱託員）	西丸 二三代
臨床検査技師（兼務）	藤本 ひかる

—概要—

健康管理センターは常勤医員2名（南谷医師・増田医師）、非常勤医員1名（馬場谷医師）に加え、応援医師1名（葛城医師）、保健師2名（岩岡保健師、八嶋保健師）、看護師1名（西丸看護師）、臨床検査技師（臨床検査科より派遣）2名、および医療マネジメント課1名、事務員3名にて業務を行っている。大きく2つに分けて、人間ドックと職域健診・特定健診を中心とした健康診断を行っている。ドック関連としては、従来人間ドック、脳ドック、乳がん検診などに加え、アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査および事後の精密オプション検査、市民大腸がん検診や骨粗鬆症検診、アレルギースクリーニング検査(MAST36)を実施している。健康診断としては、企業における定期健診（協会けんぽを含む）や特殊健診（有害物質への対応）、特定健診などの法定健診を中心として、指定航空身体検査（パイロット健診）、睡眠時無呼吸症候群の簡易スクリーニングなどを行っている。2021年度まではCOVID-19蔓延のため受診のキャンセルや感染回避へのリスク対応などで受診者数は低迷していたが、今年度は致死率の減少や移動制限の緩和により、受診者数は回復傾向となった。

人間ドックは完全予約制で、従来の月・水・金曜日に加え火・木曜日にも受診可能となっている。脳ドックはそれに加えて土曜日に頭部MRI・MRA検査を行っている。人間ドック受診後、医師の面談による結果説明を行い、精査・治療が必要な場合は一般外来へ院内紹介を行っている。外国人ドックに関しては入国制限の存在からそもそも訪日外国人がほとんどおらず対応が難しかったが、再開に向けて内容の変更も含め準備している。アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査は当院での二次精密検査に繋げ、有所見者は院内の各専門科に紹介している。

特定健診、後期高齢者医療健診および企業健診など各

種健康診断は平日の午前中、泉佐野市民検診である骨粗鬆症検診は平日の午後、市民乳がん検診は日曜日に年7回、乳がん検診セットは平日の午後にそれぞれ予約制で行っている。今年度から有所見者に対して結果通知と共に当院外来での二次健診の案内を添付し、当院の内科外来への受診を可能としさらに利便性の向上に努めている。指定航空身体検査は金曜日の診察を含め検査日を別途設けて実施していたが、他院との提携により他曜日にも実施可能のように調整した。睡眠時無呼吸症候群の簡易スクリーニングは当院循環器内科における睡眠時無呼吸専門外来へ紹介しCPAP治療等への橋渡しが可能となっている。特定健診受診後、保健指導対象者となった受診者には、初回の保健指導を後日の実施だけでなく、健診当日にも行うようにし、生活習慣の改善によるメタボリックシンドロームの発症予防を目指している。いずれも有所見者は当院外来での治療に繋げ、発症予防に貢献している。その他、被爆者2世健診、海上保安庁、消防署、関空の検疫所等の職員健診、就学時・就職時健診、企業の職員およびそのご家族の健診等を行っており、二次健診も含めて受診者の利便性の向上に努めている。

—実績—

COVID-19の感染増減に伴い若干の影響はあったが、withコロナ時代となり受診者数が大きく回復した。当時の厚生労働省通達や病院の判断に沿って感染予防対策を行い、受診者の健康チェック、検査室のソーシャルディスタンスの確保や、什器類の利用ごとの消毒など、適宜対策を行なっている。2022年度の健康管理センター利用件数は、延べ2,714件で昨年の2,187件から大幅に回復した。人間ドックや企業健診など全体的な増加が見られた。

健康管理センター利用件数

	2020年度	2021年度	2022年度
人間ドック・脳ドック	653	700	860
オプション脳ドック	110	131	163
企業健診・一般健診	803	686	844
特定健診・後期高齢者健診	109	167	203
特定健診保健指導	46	9	30
乳がん検診(市民・自費)	108	166	178
被爆者健診	23	36	38
骨粗鬆症検診	61	49	88
一般予防接種・抗体検査	24	27	21
指定航空身体検査	65	62	83
外国人専用健診・ドック	0	0	0
アミノインデックス検査(検査後精検含む)	74	77	113
睡眠時無呼吸スクリーニング	31	30	28
大腸がん検診	37	39	53
アレルギースクリーニング	17	8	12
合 計	2,161	2,187	2,714

—今年度の成果と反省点—

COVID-19感染の収束が見られてはいるが、通達や学会ガイドラインや病院規定、さらに適宜最新情報を入手して感染防御に努めたことは職員の努力と受診者の協力の賜物で感謝すべきと考えている。健康診断・人間ドックとも昨年から大幅に増加し、postコロナより新たな健康管理センターの発展につながったと思われる。更なる地道な努力と、新規顧客の開拓、対応の効率化が求められる。また、外国人専用健診についてもインバウンドの再開に伴い、感染防御の観点を疎かにすることなく、受診しやすい個別項目を新たに検討するなど、多彩な海外受診者層に対応できるようにしたい。

—来年度への抱負—

感染防御の必要性は忘れることなく、地域の健康管理の要としての役割を果たしていきたい。特に、必要なところを充実し省略できるとことは省略して、さらなる合理化を目指したい。このようにして人間ドックの充実や当院独自の健康診断をさらに広げたいと考えている。特に、二次健診としてハイレベルな当院外来、入院に対応できる施設としての継続的な安定性を維持し、地域の需要に対してしっかり応えていきたいと考えている。